

2024年12月20日

たてくるジオパーク だより 第74号



発行：立山黒部ジオパーク協会 事務局

〒930-0856 富山市牛島新町5-5 タワー111ビル1階

TEL: 076-431-2089

FAX: 076-482-3204

MAIL: info@tatekuro.jp

HP: <https://tatekuro.jp/>

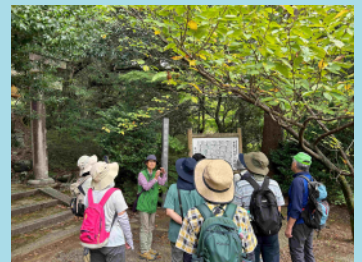


<https://facebook.com/tatekuro>

新規ジオガイド養成講座

立山黒部ジオパークにおいて、大地と自然の素晴らしさ、そこで暮らす人の文化・産業を伝える「ジオガイド」を養成するため、来春に新規ジオガイド養成講座を開催します。

募集要項や養成講座のスケジュール等については、近日中に立山黒部ジオパーク協会のホームページにて公開します。



2024年のジオパーク散歩が終了しました！

12月1日(日)「富山街中ジオパーク散歩」で、2024年のジオパーク散歩は、終了いたしました。2024年のジオパーク散歩の特徴は、①募集を開始すると短期間で定員に達することが多かったこと、②参加者にリーダーが多かったこと、ではないかと考えております。また、感想を寄せてくださる参加者の方が「ジオガイドの〇〇さんに大変お世話になりました」とジオガイドの名前を覚えていただいていることがわかることが何度もありました。これは、ジオガイドのみなさんが研修を重ね、しっかりと準備して実力を発揮されたおかげと、大変うれしく思っております。

2024年度で実施予定のジオパーク散歩は、2月開催予定の「ジオパーク散歩 in 片貝」が最後となります。

11～12月のジオパーク散歩

11/4 ジオパーク散歩 in 粟巣野

11月4日(月)に富山市粟巣野でジオパーク散歩を開催しました。まず、集合場所のホテル森の風立山のすぐそばにある「ミズバショウの森」に向かいました。この場所はセラピー基地に認定され、森の中にセラピーロードを敷いた際にミズバショウが咲いていることが分かったそうです。通常本州中部地方では標高1,000m以下で自生しないと言われているなか、標高600m程度の場所に自生する珍しい事例を目にすることができました。当日は天候に恵まれ、木々の間から差し込む日差しが心地よい森林セラピーとなりました。



11/9 ジオパーク散歩 in 紅葉のYKKセンターパーク

11月9日(土)に黒部市のYKKセンターパークでジオパーク散歩を開催しました。丸屋根展示館ではガイドの解説のもと、ファスナーや窓枠の仕組みについて学びました。その後、「ふるさとの森」を散策しました。「ふるさとの森」はYKK創業社長の「森の中の工場」という理念のもと、失われつつある黒部本来の自然を守るため、黒部川扇状地に原生している樹木の種子を育てるところからスタートしたそうです。「ふるさとの森」の看板の写真をよく見ると当協会のジオガイド2名の姿が写り込んでいました。



11/10 ジオパーク散歩 in 芦峯寺

11月10日(日)に立山町芦峯寺でジオパーク散歩を開催しました。はじめにガイド作成の資料をもとに芦峯寺の地質地形の説明を聞き、芦峯雄山神社、宿坊教算坊、閻魔堂、うば堂基壇など立山信仰の里を巡りました。例年であれば紅葉の見頃を迎えている時期ですが、先月まであたたかい気候が続いたため、芦峯寺周辺では色づいた木々はごく一部で多くの木々はまだ青々としていました。



11/12 ジオパーク散歩 in 八尾

11月12日(火)に富山市八尾でジオパーク散歩を開催しました。八尾町民ひろばに集合し、高熊のサイカチ、高熊カキ貝化石床、石畳の諏訪町通りなどを巡りました。高熊カキ貝化石床は河原に降りての観察はできませんでしたが、参加者は仁歩川橋の上から双眼鏡を覗き込み、夢中になってカキ貝の化石を探しました。帰りは石畳の諏訪町通りを経由してスタート地点を目指しました。諏訪町通りの石畳の道と格子戸や白壁の伝統的な建物が軒を連ねる街並みは昔ながらの風情を残しており、この景観を保全するために新築や増築の際も外壁などは街並みに調和するように揃えられているそうです。



11/14 ジオパーク散歩 in 入善町

11月14日(木)に入善町でジオパーク散歩を開催しました。園家山キャンプ場に集合し、入善海洋深層水活用施設、高瀬湧水の庭を巡りました。高瀬湧水の庭にある2箇所の湧水を飲み比べました。参加者は2つの湧水に違いがあると感じていましたが、入善町の商工観光課に確認したところ、造られた時期に違いはあるものの、2つの湧水の水源には違いはないとのことでした。



12/1 富山街中ジオパーク散歩

12月1日(日)に2024年最後のジオパーク散歩を富山市で開催しました。富山市役所展望台から見学した後、松川・いたち川に沿って歩き、石倉町の延命地蔵の水を目指しました。普段、いたち川がどこを流れているのかをあまり意識せず暮らしていましたが、実際に歩いて川の蛇行を感じることができました。今回のジオパーク散歩は雨天かつ街中での開催だったこともあり、試験的に片耳に付けるイヤホン型のガイドマイクを使用してみました。参加者の反響をみて、今後の使用を検討したいと思います。



11月の活動より

11/21 ジオカフェを再開しました！

11月21日、ジオカフェを再スタートさせました♪コロナ禍で中断してしまっていたので、久々でやり方を忘れてしまい…今回は、8月末に開催された日本ジオパーク全国大会の報告という形で、立山黒部ジオパーク協会の森内専門員と上田専門員から話を聞きました。森内専門員から全国大会で発表した教育活動(「高低差4000m」及び新ジオサイトの教育的活用)の報告がありました。上田専門員からは、下北のジオや歴史、文化、現地で実際に見聞したり感じたことについて聞きました。いつもは食事しながらなのですが、今回はお菓子とお茶にしました。全国大会があった青森県の下北ジオパークと黒部のお土産を用意して、食べて頂きました。次回が楽しみです。

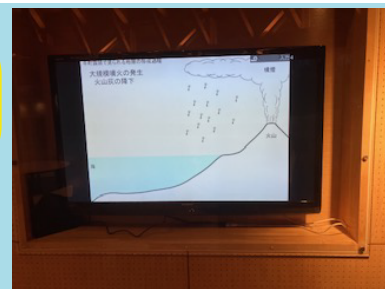


立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK



呉羽丘陵多目的広場ビジターセンター内に 富山大学院生制作の解説映像放映中

たてくろジオパークだより第70号で、当協会が新ジオサイトとして選定の準備を進めている寺町テフラ露頭を富山大学院生が調査研究活動を進めてくれていることをご紹介しました。11月22日から映像化した調査結果を寺町テフラ露頭に隣接する呉羽丘陵多目的広場ビジターセンター内の大型モニターでの放映を開始しました。この露頭の調査研究を行い、映像を制作してくれたのは、富山大学理工学研究科の4名の大学院生です。この露頭は大変貴重であり、富山市中心部に近いという便利な露頭なのですが、露頭を直接観察するには危険な場所にあるため、どのような方法で一般の来訪者に見ていただくかが大きな課題でした。4名の大学院生の若くて柔軟な発想のおかげで、映像化することができ、富山市の許可をいただいて安全に観察することができるようになりました。ビジターセンター内は無人ですが、午前9時から午後5時の間、自動で繰り返し再生されています。是非、訪れていただき、ご覧いただければと思います。



その他の活動より

12/8 ~ 10 JGN 全国研修会開催

12月8~10日の3日間、JGN全国研修会が伊豆半島ジオパーク(会場:静岡県沼津市)で開催され、全国から42名が参加し、当協会からは、上田専門員が参加しました。1日目と2日目は、書籍「ジオパークからはじめる地域づくり・人づくり」を教材に、講義とワークショップが行われました。大変難解な内容のため、参加者は必死に聴講し、話し合いに取り組んでいました。3日目は、伊豆半島の東コース20名と西コース22名に分かれて現地研修を行いました。上田専門員は西コースに参加し、「静岡大学と松崎町によるデザイン思考を駆使した未来共創プロジェクト『松崎2030』」を見学し、次にジオクルーズとして堂ヶ島の海底火山の多彩な痕跡を海から見学しました。日本列島の大部分が中国大陸から分離したのに対して、伊豆半島は、フィリピン海プレートが海底火山噴火を繰り返しながら北上して日本列島に衝突してできた特異な地質であるところを見学することができました。最後に伊豆半島ユネスコ世界ジオパークの中央拠点施設である「ジオリア」を見学しました。



11/23~25 日本ジオパーク再認定審査現地調査

11月23~25日の3日間、4年ごとの日本ジオパーク再認定審査の現地調査が2名の調査員を迎えて行われました。

内容は、前回の再認定審査における指摘事項や、自己評価についての対策と進捗状況について説明し、調査員からも様々な質問やご指摘をいただきました。各支援自治体からも代表者にお越しいただき、市町村のジオパークに関する取り組みを説明していただきました。そして、さらに、「稲村のスランプ構造」「富山地方鉄道社内科学館号」「魚津埋没林博物館」「寺町テフラ露頭」「呉羽山礫層」などを現地視察していただきました。

再認定審査の結果は、令和7年1月27日に通知される予定です。



身近な気候変動の緩和・適応の取り組みを実践しましょう！

記録的な猛暑から秋をとばしてあつという間に冬がやってきました。このような気候変動に対して、その緩和や適応の取り組みは、地球温暖化を抑制して持続可能な社会構築のために大切な活動です。この取り組みは、「誰かが」ではなく、「みんなが」日々の生活において、少しずつ実践する必要があります。立山黒部ジオパーク協会は、この活動の推進者でありたいと考えております。今号では、「富山市の地球温暖化対策推進計画 概要版」をご紹介します。下記のURLまたは右記のQRコードからご覧ください。



https://www.city.toyama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/011/270/chikyuondanka_plan_gaiyo.pdf

たてくろ見どころ紹介コーナー

泥鱒池（どじょういけ）（立山エリア）

— ひっそりとたたずむ神秘的な池 — 飛越大地震でできた堰止湖

安政5（1858）年の飛越大地震による“鳶崩れ”によって湯川がせき止められいくつもの池ができました。その一つが今も残っている泥鱒池です。ドジョウが生息している様子から名づけられたようですが（実際に生息していることが確認されています）、旧立山登山道「松尾峠」の直下に位置するため「松尾池」の別名もあります。湖面標高約1,315m、長径約190m、短径約110m、最大水深2.3m。立山温泉で働いていた人々は、魚のいなかったこの池にフナやドジョウ、ニジマスを放流し宿の食材にしました。放流されたフナやニジマスは自然繁殖して増え、これらの魚を求めて鳥や獣が集まり、今では様々な生き物が集う生命豊かな池となっています。木々に囲まれ新緑や紅葉が美しい池ですが、立山カルデラ内は関係者以外立ち入り禁止となっており、立山カルデラ砂防体験学習会に参加すれば訪れることができます。泥鱒池は、立山黒部ジオパークのジオサイトになっています。



<https://tatekuro.jp/enjoy/pointDetail.php?id=34>



稲村のスランプ構造（ジオサイト）入口にお願い看板設置

11月6日、「稲村のスランプ構造」（ジオサイト）入口に右図のような看板を設置しました。「稲村のスランプ構造」は、毎年、上市町立の全小学校6年生と一部の立山町立小学校6年生がふるさと学習として訪れ、立山黒部ジオパーク協会のジオガイドや専門員が解説を行っている露頭です。この場所は、学術・教育面において大変貴重な露頭ですので、見学される来訪者に守っていただきたいサイトの保護・保全のお願いを看板で表示しました。また、立山黒部ジオパークのホームページで「みどころ検索」をクリックしてサイトの詳細を閲覧すると、全てのサイトに下記の「サイトの保護・保全のお願い！」が表示されています。郷土の大切な宝物である露頭を長く守っていきたくて考えています。みなさんのご協力をお願いいたします。



稲村の スランプ構造

お願い

稲村のスランプ構造は、学術・教育面において大変貴重な露頭ですので、下記の注意事項を守っていただくようお願いいたします。

- 一、ゴミ等の不要物を敷地内に投棄しないでください。
- 二、地層をくずすなど破損したり、持ち帰ったりしないでください。
- 三、駐車は必ず敷地内にてしてください。

立山黒部ジオパーク



サイトの保護・保全のお願い！

私たちの大切な宝物であるジオ・自然・文化サイトを壊したり汚したりされませんよう保護・保全にご協力をお願いします。また、サイトが破損や汚染しているのを見かけられたら、当協会までお知らせください。

立山黒部ジオパーク協会

TEL 076-431-2089

E-mail info@tatekuro.jp

立山黒部ジオパーク協会では、富山県東部地域の魅力を世界へ発信するために、民間活力を活かしたジオパーク活動を行っています。私たちの活動を支援して下さる方、手助けをして下さる方をお待ちしています。ジオパークの活動に興味のある方は、立山黒部ジオパーク協会（076-431-2089）までお問い合わせください。

<編集後記> 元日の能登半島地震で始まった令和6年も、あつという間に年末を迎えました。「富山は雪は積もるけど地震や台風の災害がない」と漠然と考えていた私たち富山県民にとって、震度5弱の揺れは、地震という自然災害の恐ろしさを教えてくれました。また、ジオパークの存在意義と責任を痛切に感じざるを得ませんでした。これからも、ジオパーク活動に邁進してまいりたいと思います。会員の皆様、良いお年をお迎えください。



立山黒部ジオパーク
TATEYAMA KUROBE GEOPARK

